



節ないし局面を生じる。これに血管腫の要素を伴うものを ec-crine angiomatous hamartoma といい、四肢に好発する。

6. アポクリン母斑 apocrine nevus

脂腺母斑ではアポクリン腺の増殖を伴いやすいが、ごくまれにアポクリン腺の増殖のみを認める過誤腫があり、これをアポクリン母斑という。頭部または腋窩に生じる丘疹、小結節である。

C. 間葉細胞系母斑 mesenchymal-cell nevi

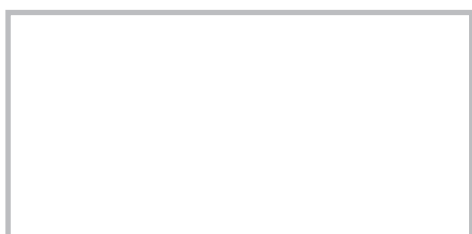


図 20.25 結合組織母斑 (connective tissue nevus)



図 20.26 Buschke-Ollendorff 症候群に生じた結合組織母斑
右季肋部に弾性線維の増加による局面がみられる。
常染色体優性遺伝。

1. 結合組織母斑 connective tissue nevus

膠原線維，弾性線維ないしムチンが増生した結果，主に体幹に正常皮膚色の軽度隆起した局面や結節が出現する（図 20.25，20.26）。種々の基礎疾患を背景に生じることが多い（表 20.1）。

2. 表在性皮膚脂肪腫性母斑 nevus lipomatosus cutaneous superficialis

脂肪細胞が真皮内で異所性に増殖し，直径数 cm までの軟らかい黄色結節を生じる（図 20.27）。先天性のものと成人になって生じるものがある。

3. 軟骨母斑 cartilage nevus

軟骨を含んだ，半球状で正常皮膚色の丘疹が出現する。耳周辺で生じたものを副耳（accessory auricle, ear tag）と呼ぶ。胎児期鰓弓発生障害に伴う。

4. 平滑筋過誤腫 smooth muscle hamartoma

同義語：平滑筋母斑

立毛筋部の過誤腫（図 20.28）。腰部，仙骨部に好発し，生後 6 か月以内に発症することが多い。境界がやや不明瞭な淡褐色色斑で，しばしば多毛を伴う。